

2014年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2014年2月4日

第3四半期決算ハイライト

全社

- 営業利益は業績予想に対して、やや進捗遅れ
- 四半期毎の営業利益率の改善は進む

心臓血管

- 国内カテーテル事業は好調を維持
- 北米カテ事業は好調、欧州は若干鈍化
- ニューロ領域の新製品は順調に拡大
- 品質システム改善活動は最終段階へ

血液

- 厳しい市場の中で堅調な業績を維持

ホスピタル

- 新製品の遅れなどが影響し、国内事業が減速

決算概要：増収増益を継続

	13/3期 Q3累計	14/3期 Q3累計	増減率
売上高	2,957	3,453	+17%
粗利益	1,535 (51.9%)	1,787 (51.7%)	+16%
一般管理費	915 (31.0%)	1,080 (31.2%)	+18%
開発費	194 (6.5%)	224 (6.5%)	+16%
営業利益	426 (14.4%)	483 (14.0%)	+13%
(のれん等償却除く)	525 (17.8%)	604 (17.5%)	+15%
経常利益	405 (13.7%)	499 (14.5%)	+23%
純利益	247 (8.4%)	369 (10.7%)	+49%
EBITDA (営利+償却費)	662	775	+17%

(億円)

期中平均レート

US\$ 80円
EUR 102円

99円
132円

売上高と伸長率(Q3累計)

カテーテルは10%伸長、国内ホスピタルは減速

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計	海外				合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	956 (-0%)	283 (4%)	87 (-5%)	66 (-0%)	9 (-13%)	121 (15%)	1,239 (1%)
心臓血管	368 (6%)	1,171 (6%)	431 (5%)	477 (7%)	137 (13%)	127 (-1%)	1,539 (6%)
うちカテーテル	284 (9%)	872 (10%)	339 (9%)	305 (11%)	129 (13%)	98 (3%)	1,156 (10%)
血液 システム	97 (2%)	578 (4%)	185 (2%)	277 (4%)	27 (5%)	89 (11%)	675 (4%)
合計	1,421 (2%)	2,032 (5%)	702 (3%)	820 (5%)	173 (10%)	337 (8%)	3,453 (4%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

販管費

一般管理費は売上伸長の範囲内にコントロール
研究開発費は注力分野に継続投入

(億円)

	13/3期 * Q3累計	14/3期 Q3累計	増減	増減率
一般管理費計	1,057	1,080	+23	+2%
研究開発費	215	224	+9	+4%
販管費合計	1,272	1,304	+32	+3%

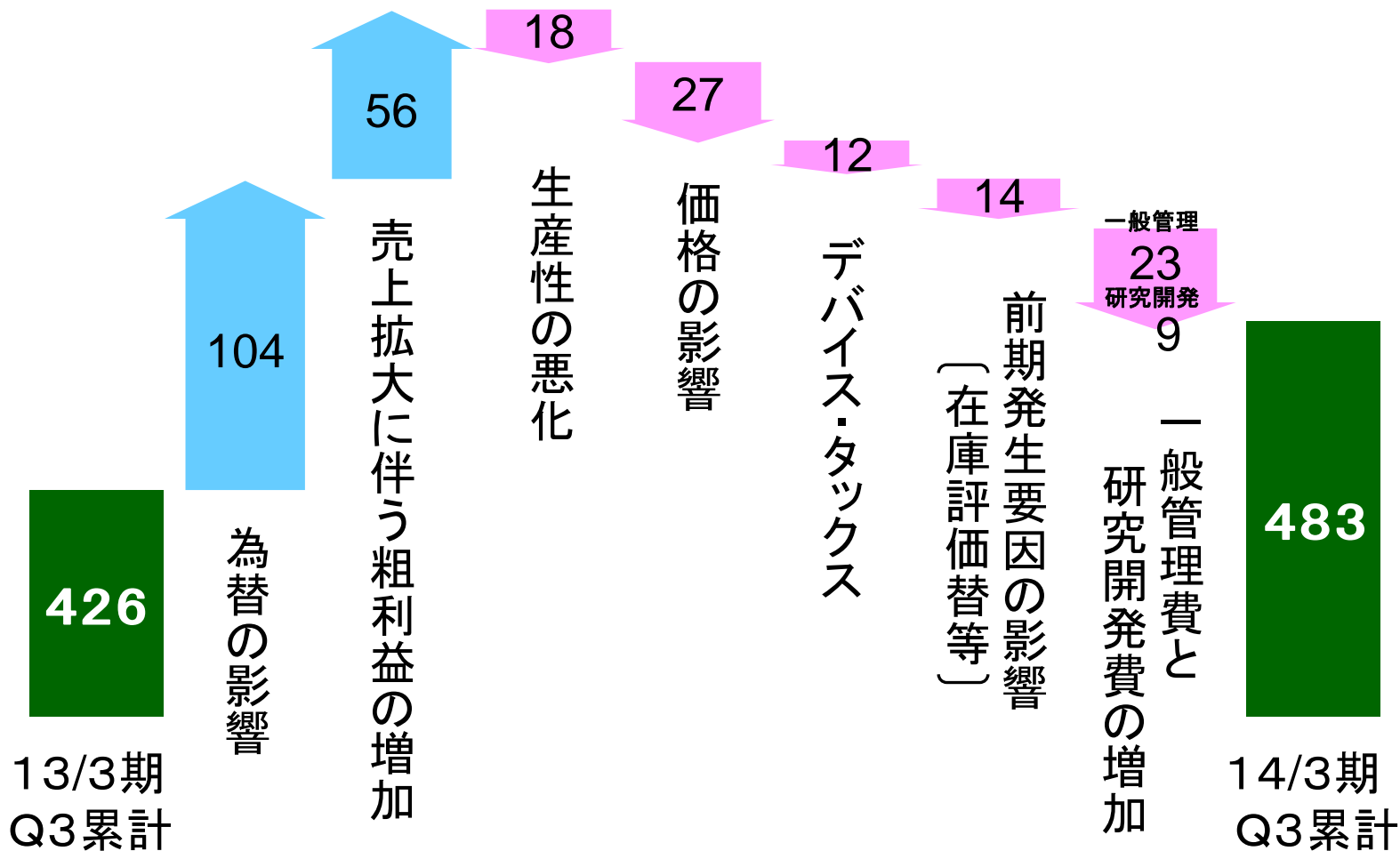
* : 為替の影響を除いた換算値

- 米州(カテ・ニューロ)の販売力の強化
- ニューロ新製品、血液システム(治療アフエレーシス・血液自動製剤システム)へ開発費を投下

営業利益増減分析

売上拡大・費用管理により着実に収益性を改善

(億円)



四半期の動き

収益率を着実に改善

(億円)

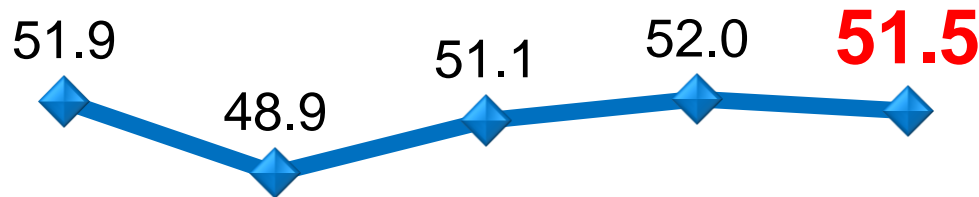
	FY12Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,039	1,065	1,111	1,149	1,192
粗利益	529 (50.9%)	522 (49.0%)	570 (51.3%)	601 (52.3%)	615 (51.6%)
販管費	385 (37.0%)	416 (39.1%)	437 (39.3%)	430 (37.4%)	437 (36.7%)
営業利益	144 (13.9%)	106 (9.9%)	133 (12.0%)	171 (14.9%)	178 (14.9%)

期中平均	US\$	81円	92円	99円	99円	100円
レート	EUR	105円	122円	129円	131円	137円

粗利益率、販管費率、営業利益率

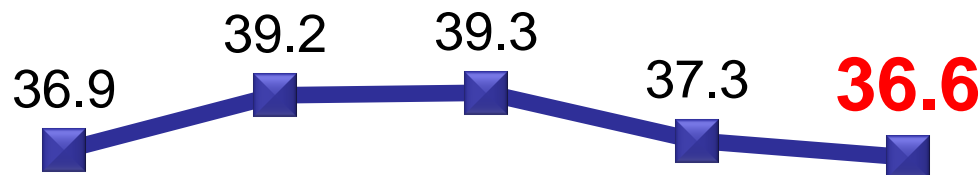
為替影響を除く収益率を着実に改善

(%)



粗利益率

➤ ホスピタルの影響



販管費率

➤ 売上伸長の範囲で
コントロール



営業利益率

➤ 継続的に向上

Q3 FY12 Q4 FY12 Q1 FY13 Q2 FY13 Q3 FY13

(為替の影響を除く、各四半期の3ヶ月単位)

業績予想の進捗状況

営業利益は売上拡大と費用管理により改善を見込む

(億円)

	業績予想	実績	対予想比
売上高	4,600	3,453	75%
営業利益	700 (15.2%)	483 (14.0%)	69%
経常利益	675 (14.7%)	499 (14.5%)	74%
純利益	420 (9.1%)	369 (10.7%)	88%

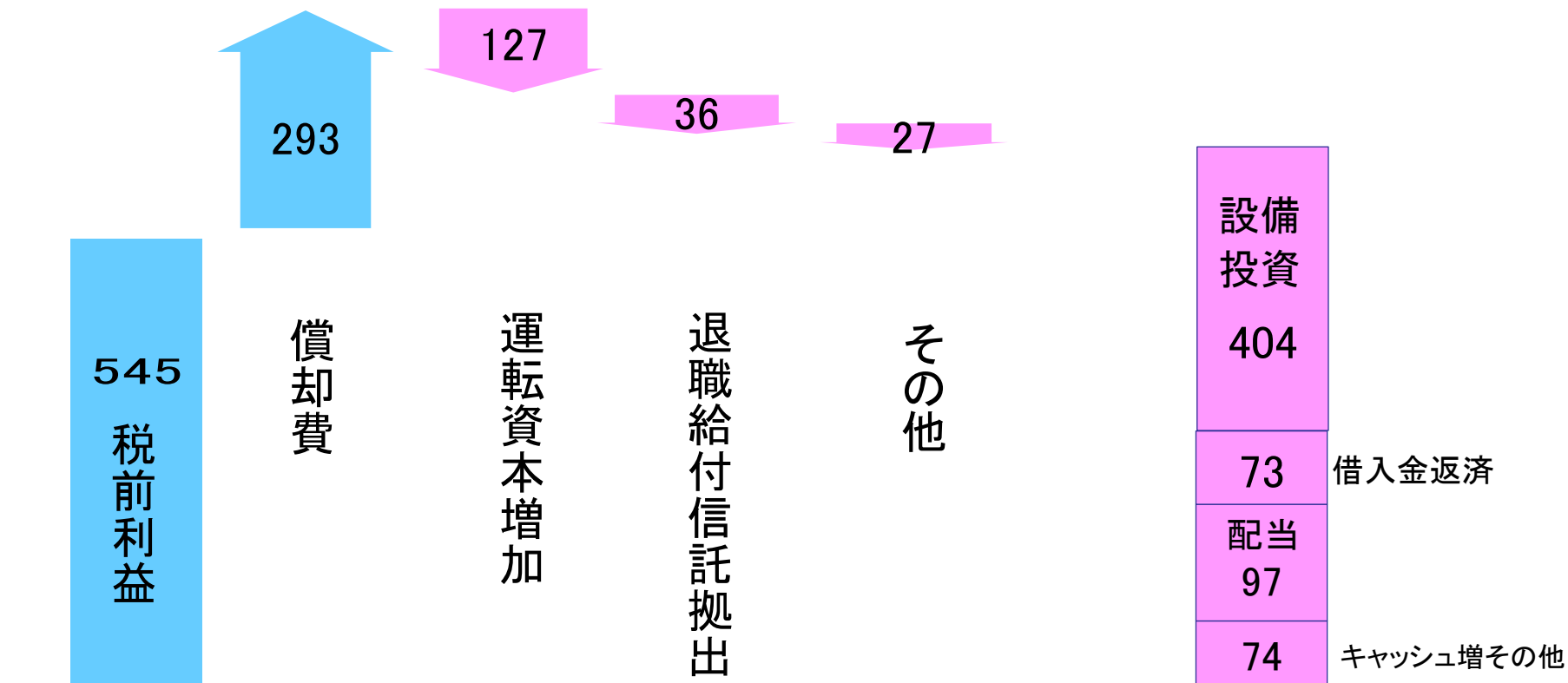
営業キャッシュフロー

成長投資・借入金返済・株主還元をバランスよく実施

(億円)

営業キャッシュフロー内訳 648

用途 648



下期パイプライン製品のローンチ状況

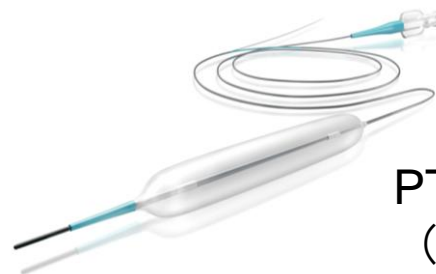
ローンチ済み製品

領域	製品	地域
心臓	新PTCAバルーン	日
血液システム	統合データ管理システム (TACSI対応)	欧
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	日
	スマートポンプ	亜

Q4ローンチ予定の製品

ペリフェラル	バルーン(膝下)	欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	中国
心臓	TRI用細物シース	日
血液システム	成分採血装置 (血漿採血対応)	日

ローンチ済み製品



PTCAバルーン
(Hiryu Plus)



統合データ管理
(TOMEs)



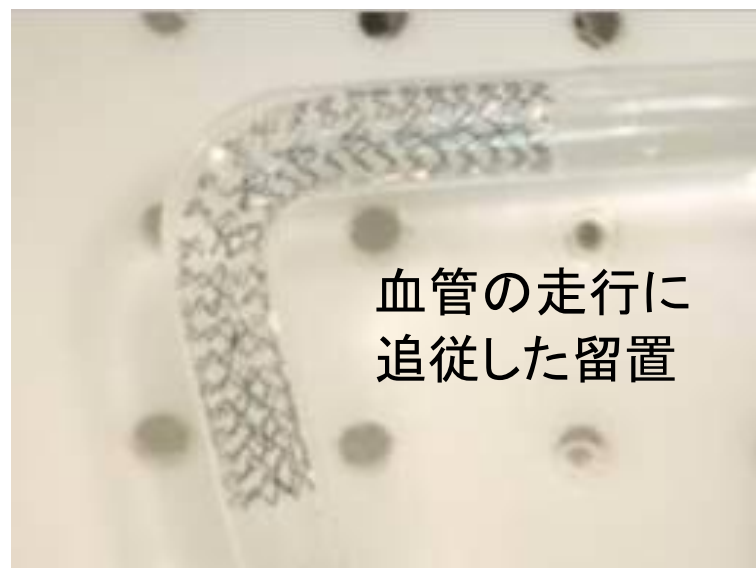
閉鎖式輸液ライン
(シュアプラグAD)



スマートポンプ
(テルフュージョン)

Ultimaster、欧州でCEマークを取得

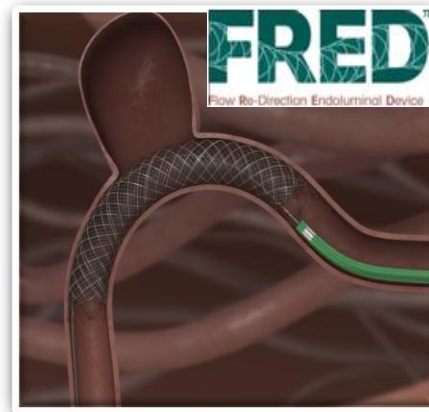
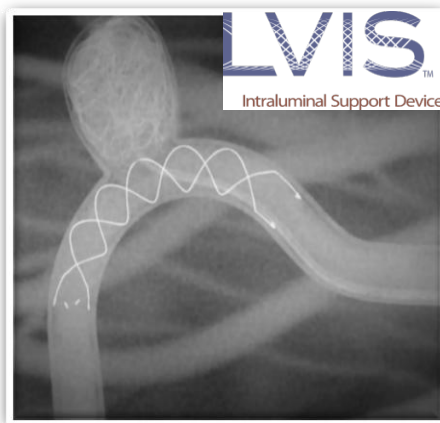
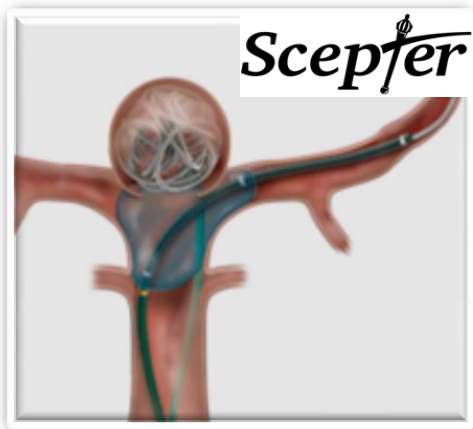
- 生分解性ポリマー、片面コートで長期臨床成績を期待
 - 分解期間を9~12ヶ月(ノポリ)から3~4ヶ月に短縮
- コバルト合金による薄化、デザインの工夫で柔軟性向上
- 2016年度 グローバル150億円の売上げを見込む



ニューロ新製品の販売好調、更に拡大へ

Q3累計

- バルーン(Scepter) : \$10M、世界シェア 30% (推定)
 - アシストステント(LVIS) : \$ 5M
 - 血流改変ステント(FRED) : \$ 5M
- } 地域拡販に向け
} 治験も着実に進捗
- 2016年度 グローバル80億円の売上げを見込む



ローンチ予定

ローンチ予定

グローバルでローンチ済み

中: 申請済み FY13 Q4
米: HDE臨床済み FY14
日: フォローアップ完了 FY15

米: PMA治験中 FY16

為替前提を変更、通期業績予想は変更なし

年間想定レート 米ドル 100円 (Q4想定102円)
ユーロ 134円 (" 139円)

(億円)

	14/3期 予想	対前年 増減率
売上高	4,600	+14%
営業利益	700 (15.2%)	+32%
(のれん等償却除く)	850 (18.5%)	+27%
経常利益	675	+31%
純利益	420	-11%

株式分割

- 2月4日の取締役会において株式分割を決定
- 投資家の利便性と株式の流動性の向上を目的
 - 分割方法 普通株式1株につき、2株の割合をもって分割
 - 基準日公告日 2014年 2月 5日(水曜日)
 - 基準日 2014年 3月31日(月曜日)
 - 効力発生日 2014年 4月 1日(火曜日)

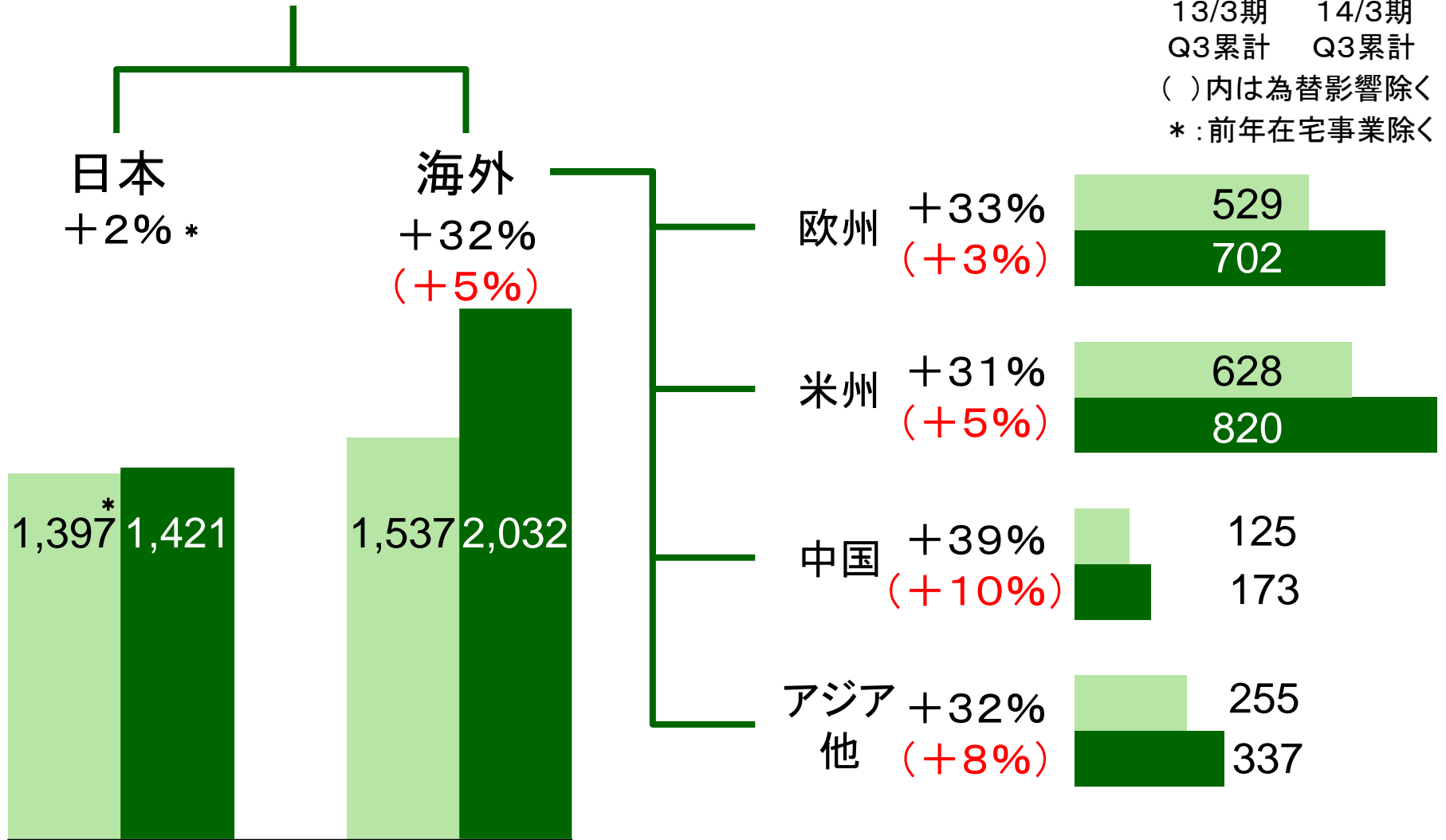
参考資料

売上高 地域別

連結: +18% (+4%)*

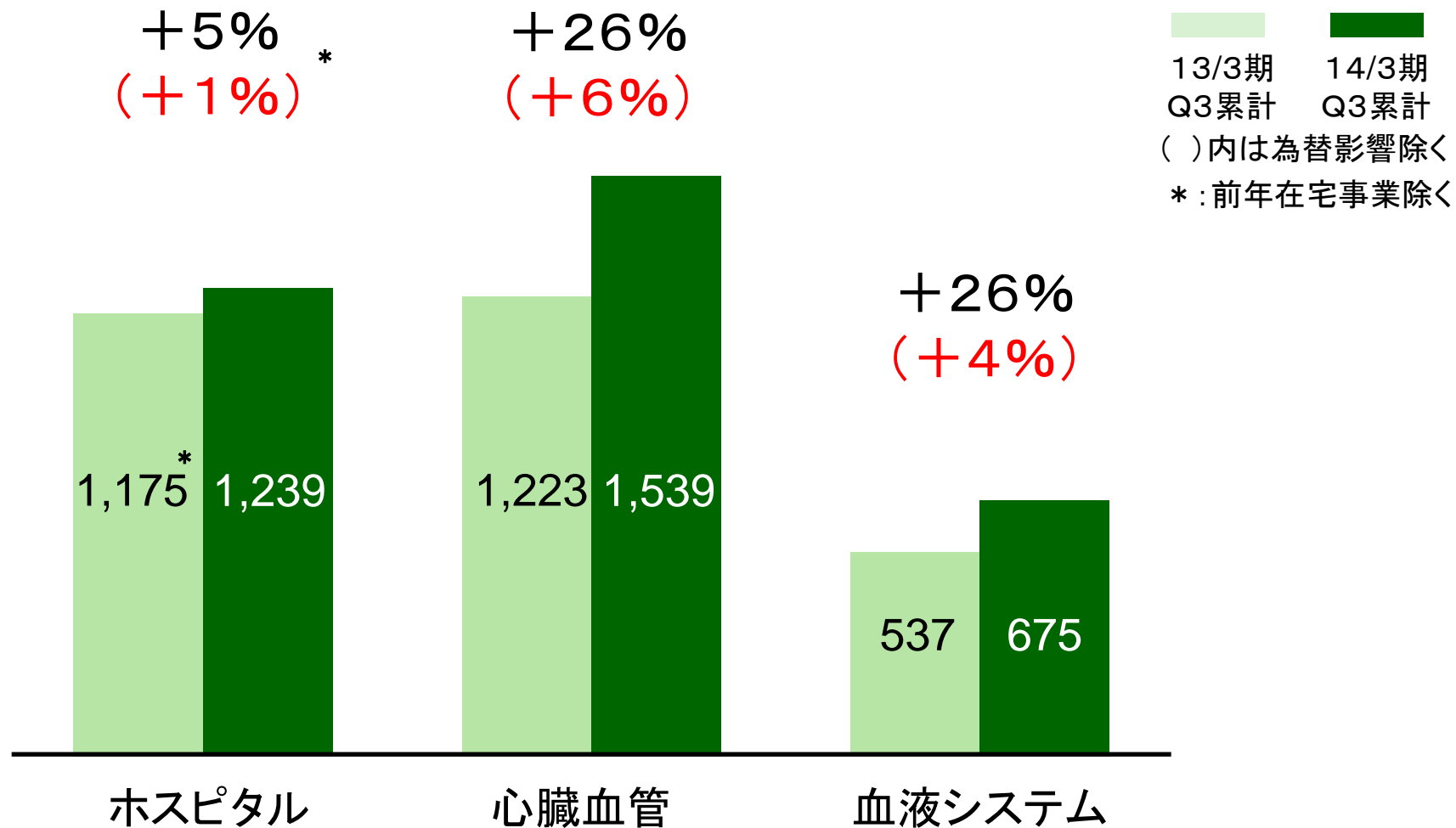
(億円)

13/3期 14/3期
Q3累計 Q3累計
()内は為替影響除く
*: 前年在宅事業除く



売上高 事業セグメント別

(億円)



事業別 地域別売上高と伸長率 (Q3のみ)

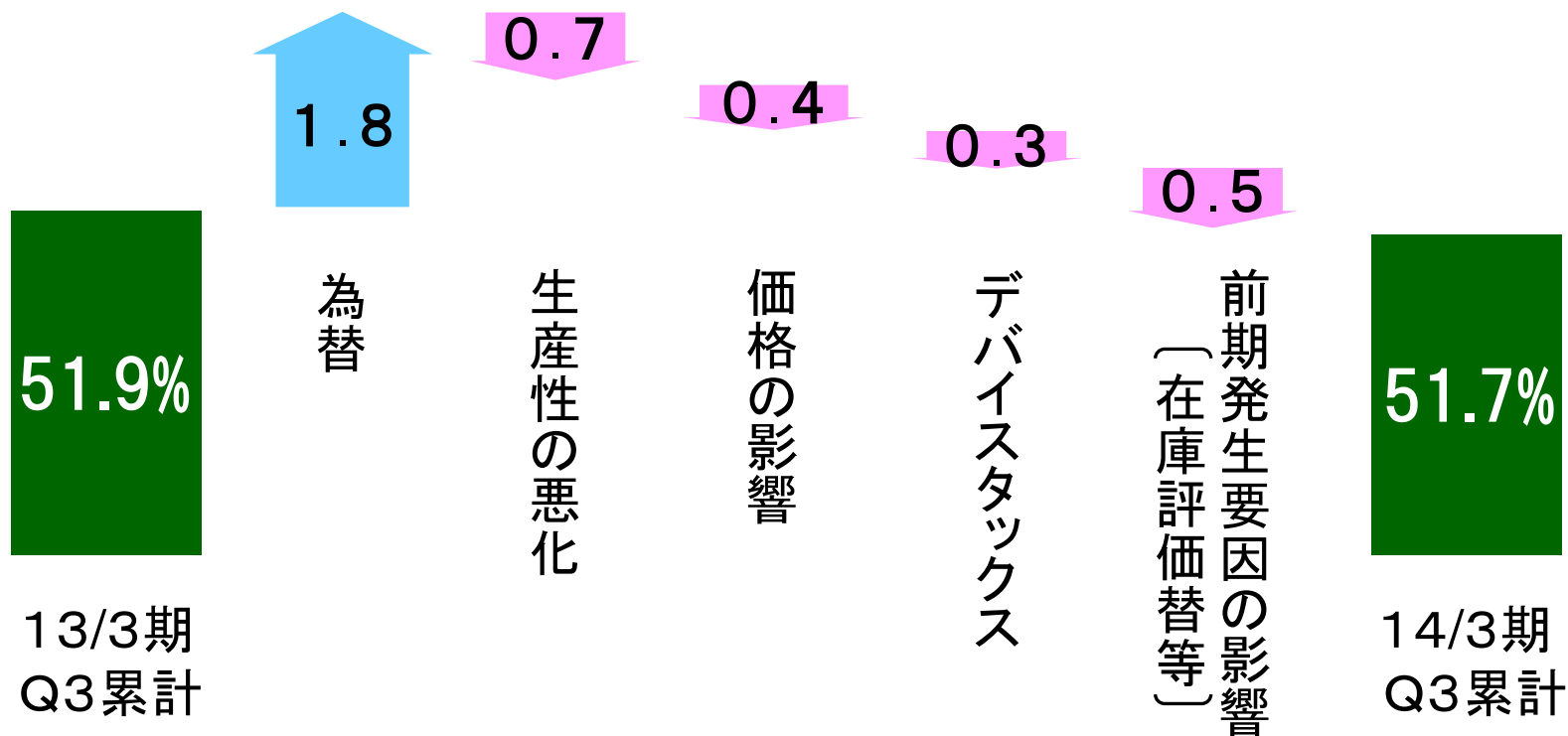
(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計	地域別				合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	329 (-5%)	98 (8%)	31 (6%)	22 (-2%)	3 (-8%)	42 (16%)	427 (-3%)
心臓血管	126 (8%)	405 (7%)	150 (4%)	162 (8%)	49 (13%)	44 (3%)	531 (7%)
うちカテーテル	96 (11%)	306 (10%)	121 (9%)	104 (12%)	47 (13%)	34 (5%)	401 (11%)
血液 システム	34 (-2%)	200 (1%)	65 (-1%)	94 (3%)	9 (-8%)	32 (0%)	234 (0%)
合計	489 (-2%)	703 (5%)	246 (3%)	278 (5%)	61 (8%)	117 (7%)	1,192 (2%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

粗利益率差異分析

(%)



(参考) 上期実績

52.4% +2.2 -1.1 -0.5 -0.3 -0.9 51.8%

販管費

(億円)

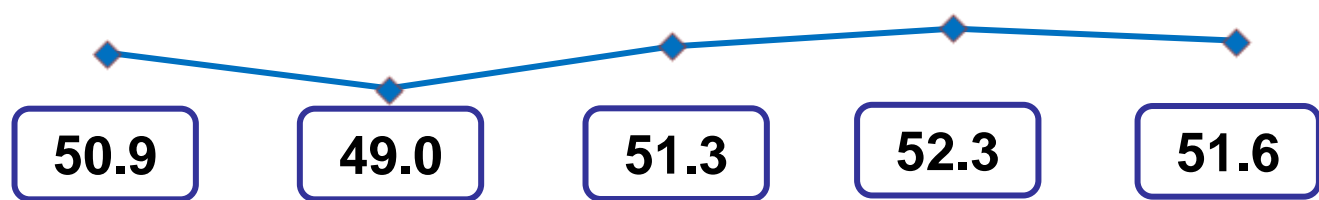
	13/3期 Q3累計	14/3期 Q3累計	増減	増減率
人件費	388	472	+84	+22%
販促費	90	106	+16	+19%
物流費	76	81	+5	+6%
償却費	132	167	+35	+26%
その他	229	254	+25	+11%
一般管理費計	915 (31.0%)	1,080 (31.2%)	+165	+18%
研究開発費	194 (6.5%)	224 (6.5%)	+30	+16%
販管費合計	1,109 (37.5%)	1,304 (37.7%)	+195	+18%

()内は対売上高%

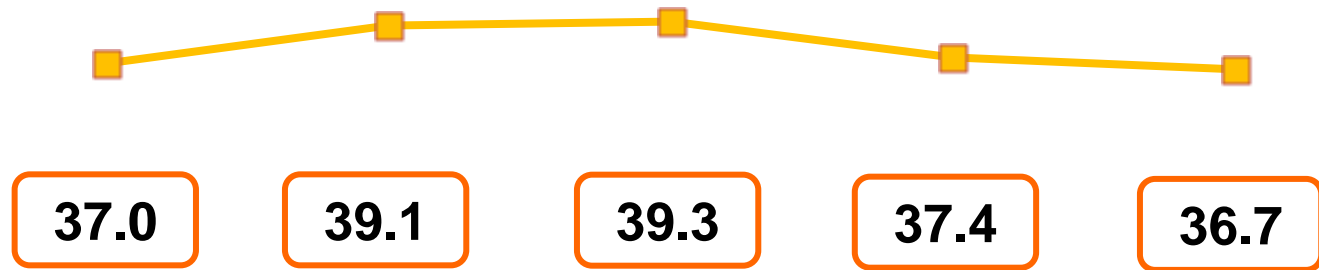
粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

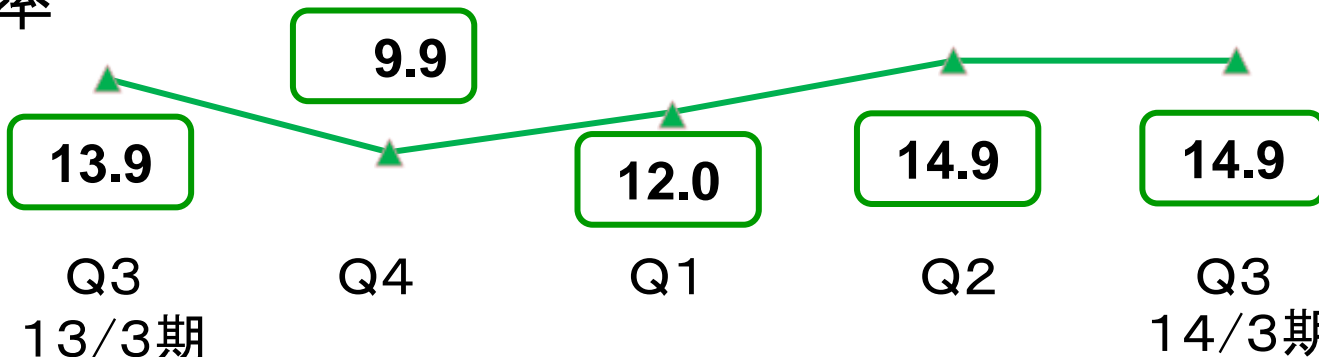
粗利益率



販管費率



営業利益率



(各四半期の3ヶ月単位)

設備投資と研究開発費

(億円)

	14/3期 見通し	14/3期 Q3累計実績
設備投資	450→500 [*]	404 (81%)
償却費	370	293 (79%)
研究開発費	300	224 (75%)

* 山口投資来期分50億円を前倒し

%: 対年間見通し割合

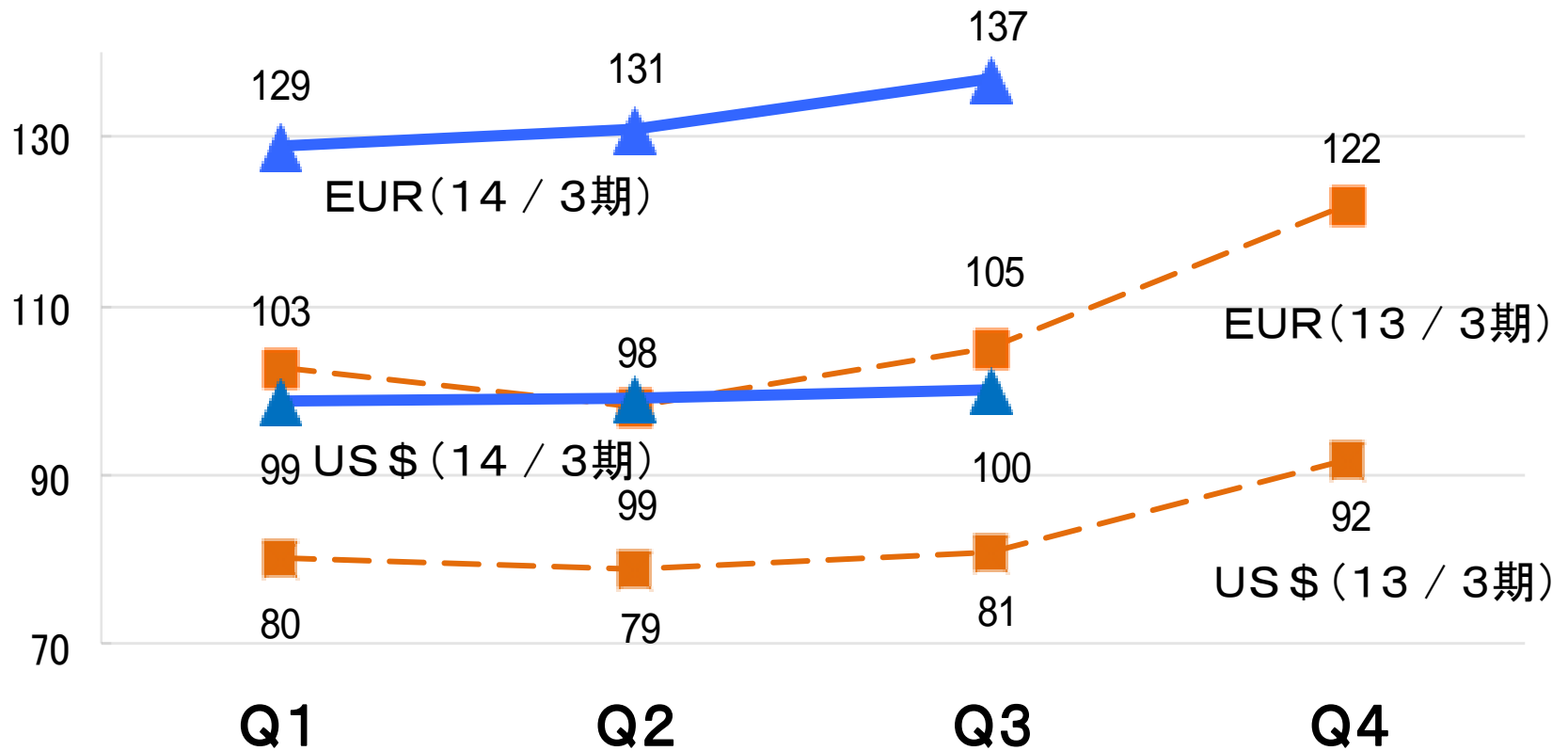
のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

為替感応度

(億円／年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。